環境コミュニケーション

考え方・方針

大和ハウスグループでは、環境に対する考え方や取り組みを社内外にわかりやすくお伝えするとともに、ステークホルダーとの対話を行い、環境活動の改善につなげていくことが大切だと考えています。また、従業員が日々接するステークホルダーの方と交わすコミュニケーションも重要と考え、社内報やイントラネットなどを通じて、従業員の環境意識や知識の向上、実践の推進に努めています。

ステークホルダーとともにコミュニケーションを展開(社外コミュニケーション)

有識者や投資家との対話

大和ハウス工業では、新たに方針や目標を設定する際や当社グループの活動内容について、適宜、有識者やNGOなど社外のステークホルダーと対話を行い、内容のブラッシュアップを図っています。

具体的には、2015年度に環境行動計画「エンドレス グリーン プログラム 2018(EGP2018)」を策定する際、当社グループの重要課題の抽出にあたっては当社のお客さま(戸建住宅・商業施設)や、取引先、株主・投資家などと意見交換を実施。その後、抽出した重要課題が妥当かどうかを複数の有識者と確認し、当社グループのマテリアリティ(重要課題)を特定、EGP2018に反映させました。

また近年、機関投資家や社外の評価機関から当社グループの環境に関する考え方や取り組みについて、ご質問や評価をいただくことが増えました。そこで2016年度も、環境省が実施する「環境情報開示基盤整備事業」に継続して参加。企業のESG(環境・社会・ガバナンス)情報に関して、金融機関等とシステム上のプラットフォームで意見交換を行い、金融機関等が関心のある事項の把握に努めました。さらに、当社独自で機関投資家(アセットマネージャー)とESGに関する意見交換会を4回実施、実際に会って対話することで、企業のESG情報活用方法についてヒアリングするなど、相互理解を深めました。

今後も継続して、有識者等と対話することにより、当社グループについての理解の促進や検討プロセスの透明性を確保するとともに、最新の知見をふまえた広い視点からのご意見を社内に取り入れ、活動の実効性を高めていきます。



機関投資家との対話の様子

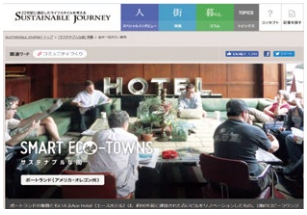
環境Webサイトを軸とした情報発信の強化

当社グループでは、Webサイトや環境報告書、展示会などを通じて、当社の環境に関する情報を発信しています。なかでもWebサイトは、さまざまなステークホルダーに見ていただける媒体として重要と考え、内容の充実を図っています。

当社グループの環境Webサイト「環境への取り組み」では、当社グループの環境長期ビジョン「Challenge ZERO 2055」を説明する動画や、当社グループの目指す「エネルギーゼロの街づくり」を1分で紹介したアニメーションに加え、環境先導事例を紹介する「スペシャルエコレポート」や、地域特性に応じた世界の住宅を紹介する「世界の環境共生住宅」などのコンテンツを掲載。これらの新着情報はFacebook等のSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)で周知を図るとともに、展示会や講演会でもお伝えしています。

また、一般生活者の方を対象として、これまで冊子で発行していた、「SUSTAINABLE JOURNEY」をWebマガジンとして定期的に配信。より多くの方に世界のスマートシティやサステナブルな暮らし方に関する情報をお届けし、環境に配慮したライフスタイルの参考にして頂いています。

また、海外のステークホルダーからの問い合わせも増加しており、環境情報のグローバル対応として、英語版Webサイトの拡充も継続して実施。コンテンツの充実を図っています。



SUSTAINABLE JOURNEY



エコプロ2016

地域社会と連携した環境コミュニケーション活動の展開(こどもエコ・ワークショップ)

当社では、2005年から次代を担うこどもたちに地球環境の大切さを伝え理解してもらうことを目的に、親子で一緒に環境問題について「考え・つくり・発見する」家模型づくり、「こどもエコ・ワークショップ」を実施しています。

このワークショップは、「住まい」をテーマに夏涼しく冬暖かくて気持ちのいい、エコな家模型をつくるもので、2016年度は296名にご参加いただき、累計参加者は6,009名(2017年3月末現在)となりました。今後もワークショップを通じて、こどもたちに環境について学ぶ機会を設け、地域社会と連携した環境コミュニケーション活動を継続して実施します。



こどもエコ・ワークショップの様子



こどもたちが作った家模型

(幼児向け環境教育プログラムの開発)

当社には、小学生を対象とした環境教育プログラム(こどもエコ・ワークショップ)があり、好評をいただいています。しかし、幼稚園や保育園に通うこどもがいるお客さまも多いため、事業所やお客さまから幼児も参加できる環境教育プログラムの要望が多くありました。そこで、2016年度より幼児向け環境教育プログラムの開発に着手しました。

本プログラムでは、当社のWebサイト「環境への取り組み」で人気の高い、世界の気候に適応した住宅を紹介する「世界の環境共生住宅」をテーマとした紙芝居の読み聞かせやクイズ、ダンボールでできたブロックを使った家づくりを行います。なお、このプログラムは文部科学省が進める教育内容もふまえたものとなっています。

2017年6月に行った当社倉敷支店主催のオーナーさま感謝祭での試行では、多くのこどもたちに楽しんでいただきました。

今後、幼稚園や保育園での試行を重ね、全国の事業所へ展開していきます。


紙芝居に聞き入るこどもたち


ダンボールのブロックで家づくり

■ 2016年度の主な実績

施策	活動内容	2016年度実績
情報発信の強化	SUSTAINABLE JOURNEYの発信	新規記事11本追加(計33本)
	環境関連の展示会への出展	エコプロ2016、住宅・都市イノベーション総合展2016
	環境Webサイトの充実	リニューアル実施、5コンテンツ追加、英語版サイト2コンテンツ追加
	CSRレポート、環境報告書の発行	1回(7月)
対話・連携の推進	SAKURA PROJECTの実施	54ヵ所・16,522名・122本
	こどもエコワークショップの実施	296名(累計6,009名)
	地域での環境活動	256件
	有識者との対話	5回(2016年6月、8月、9月)
	投資家との対話	4回(2016年8月、12月、2017年3月)

全役職員の環境意識向上と環境行動の実践(社内コミュニケーション)

環境社内報やイントラネットを活用して水平展開

当社グループでは、グループ内の環境先導事例や従業員のエコ活動などを紹介する環境社内報「We Build ECO Press」を発行(隔月)し、従業員の意識啓発を行っています。

また、社内イントラネットでは「エンドレス グリーン プログラム2018」の説明や、環境教育資料の公開、環境イベントの周知などを行い、全社の環境活動を推進しています。

2016年度は、各事業所の取り組みで効果があった環境活動を項目ごとにとりまとめた「事業所環境活動事例」をイントラネット上に公開し、さまざまな優秀事例を紹介することで環境活動の水平展開を図っています。

今後も、さらに内容を充実させて従業員の環境意識向上と環境行動の実践を推進していきます。



環境社内報
「We Build ECO Press」


事業所環境活動事例の公開

環境イベントの実施

当社グループでは、毎年6月に環境月間イベントを実施しています。

2016年度は、グループ各社及び協力会社(協力会連合会)の従業員とその家族を対象とした「大喜利写真コンクール2016」を行いました。大喜利写真&コメント部門は46件、大喜利コメント部門は222件、合計268作品の応募があり、社内イントラネット上で公開2次審査を行った結果、最優秀作品2作品、優秀作品10作品を選出しました。

また、事業所では「エコドライブコンテスト」や「OPEN THE WINDOWキャンペーン」など、独自の環境イベントを実施して環境活動を推進しています。

今後も、こうしたイベントの開催を通じて、取引先も含めた環境意識の啓発に取り組んでいきます。

■ 大喜利写真コンクール 最優秀作品


「紫外線きっついわー」


「家にいると余計な電気使うから外に行けって、カミさんが」

Topics

住民参加型ワークショップによる自治会用地の活用とコミュニティの醸成

大和ハウス工業が開発した戸建住宅用地「多摩ニュータウン東山」は、681区画の大規模開発であり、行政指導により集会所用地が2ヵ所確保されています。

そのうち1ヵ所は集会所が建設され、住まい手の方々に日々活用されていますが、もう1ヵ所は建設予定がないため、有効活用すべく住民主導による利用形態が検討されました。その結果、菜園果樹園としての利用が自治会で合意され、自治会の中に新しい住民組織「東山アグリクラブ」が発足。地元の農業経営者を交え、9か月間にわたるワークショップを開催の末、2016年2月から活動を開始。初めての収穫物を使った第1回収穫祭(懇親会)は盛況を博しました。現在も1回/月の講習会が継続して行われています。

利用予定のない自治会用地を菜園果樹園としたことで、自治会にとっては恒久的負担となったであろう維持費を軽減し、クラブ会員(住民)にとっては日々の充実感と新たなコミュニティの醸成をもたらしました。

今後も、住まい手が継続的に交流しコミュニティを醸成する仕掛けを創出していきます。



ワークショップの様子



収穫祭の様子

SDGsへの貢献

大和ハウスグループでは、環境長期ビジョン(2055年のゴール)を策定。この実現を目指して、2025～2030年にマイルストーンを置いて取り組みを進めています。当社グループの取り組みと2015年に「国連持続可能な開発サミット」にて採択された、持続可能な社会を実現するための2030年目標「SDGs」[※1]との関係をテーマごとに整理しました。

SDGs			環境テーマ			
達成目標	ターゲット[※2]		地球温暖化防止	自然環境との調和	資源保護	化学物質による汚染の防止
3	3.9	2030年までに、有害化学物質、ならびに大気、水質及び土壌の汚染による死亡及び疾病の件数を大幅に減少させる	—	—	—	P115-118
	3.d	すべての国々、特に開発途上国の国家・世界規模な健康危険因子の早期警告、危険因子緩和及び危険因子管理のための能力を強化する				
7	7.2	2030年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる	P095-102	—	—	—
	7.3	2030年までに、世界全体のエネルギー効率の改善率を倍増させる				
11	11.b	2020年までに、包含、資源効率、気候変動の緩和と適応、災害に対する強靱さ(レジリエンス)を目指す総合的政策及び計画を導入・実施した都市及び人間居住地の件数を大幅に増加させ、仙台防災枠組2015-2030に沿って、あらゆるレベルでの総合的な災害リスク管理の策定と実施を行う	P095-096、099-102	—	—	—
	11.3	2030年までに、包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、すべての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する	—	—	P109-112、114	—
	11.6	2030年までに、大気の質及び一般並びにその他の廃棄物の管理に特別な注意を払うことによるものを含め、都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する	—	—	P109～111、114	P115～118
	11.7	2030年までに、女性、子ども、高齢者及び障害者を含め、人々に安全で包摂的かつ利用が容易な緑地や公共スペースへの普遍的アクセスを提供する	—	P103-104、107-108	—	—
12	12.2	2030年までに天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用を達成する	—	—	P109-114	—
	12.4	2020年までに、合意された国際的な枠組みに従い、製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質やすべての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する	—	—	P109-111、113-114	P115～117
	12.5	2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する	—	—	P109-111	—
	12.8	2030年までに、人々があらゆる場所において、持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにする	—	P103-104、107-108	—	—
13	13.1	すべての国々において、気候関連災害や自然災害に対する強靱性(レジリエンス)及び適応の能力を強化する	P102	—	—	—
	13.3	気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する	P095-101	—		—
15	15.1	2020年までに、国際協定の下での義務に則って、森林、湿地、山地及び乾燥地をはじめとする陸域生態系と内陸淡水生態系及びそれらのサービスの保全、回復及び持続可能な利用を確保する	—	P103-108	—	—
	15.2	2020年までに、あらゆる種類の森林の持続可能な経営の実施を促進し、森林減少を阻止し、劣化した森林を回復し、世界全体で新規植林及び再植林を大幅に増加させる	—	P103-106	—	—

※1 健康や福祉、エネルギー、気候変動など17の達成目標と169のターゲットが設定されています。
※2 出典:「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ」外務省仮訳